

雲の字を吳音にいへばをう也、出の字をつむるひゝきにて、をうをとうと云なれば、出をう郡といひしを、俗の了簡に、雲の字にとうの聲なしとおもひて、東の字に改め書たる成べし、

○按ズルニ、出東郡ハ、中世私ニ出雲郡ヲ東西ニ分チタルトキノ稱ナラン、

〔續日本紀聖武〕天平十五年七月壬寅、出雲國司言、楯縫出雲二郡、雷雨異常、山岳頽崩、壞廬舍埋田畠、

〔出雲風土記〕神門郡

所以號神門者、神門臣伊賀曾熊之時、神門貢之、故云神門、即神門臣等、自古至今、常居此處、故云神門、

〔出雲風土記抄三神門郡〕有古志川東側舊墓、俗呼號神門塚、蓋昔在神門臣等葬埋之地乎、往々而今有神門氏者、往古神門等之裔孫乎、或土民、或巧匠等也、

〔日本書紀推古二十二〕二十五年六月、出雲國言於神戸郡、有瓜大如缶、

〔出雲風土記〕飯石郡

所以號飯石者、飯石鄉中、伊毘志都幣命坐、故云飯石、

〔懷橘談下飯石郡〕今の俗說に云ふ、飯石とは託和と云ふ所に、飯を堆く盛たるやうの岩あり、故に郡の名とすといへり、託和の社說にみえたり、

〔出雲風土記抄四飯石郡〕此郡家者、多根鄉掛谷村中、今呼曰郡之處是也、從此郡中方路相應矣、〔文德實錄三〕仁壽元年十二月壬子、遣使者○中賜出雲國飯石仁多兩郡百姓復一年、

〔出雲風土記〕仁多郡

仁多郡

所以號仁多者、所造天下大穴持命詔此國者非大非小、川上者木穗判加布、川下者阿志波布這度之、是者爾多志枳小國在詔、故云爾多、

〔出雲風土記抄四仁多郡〕謂所以號仁多者、由有詔爾多志枳小國也、今見有横田鄉竹崎村田疇之中曰小國之處、吁餘玄古舊名誠以異乎哉、

飯石郡

神門郡